

[写真左] 「入江一子シルクロード記念館」を訪れた日野原重明先生（現在101歳）

[写真右上] 2009年12月、ニューヨークの日本クラブで開催された「入江一子個展」会場

若いときより若々しい
絵が描けます！
入江一子（現在96歳）

世界へ躍進する女流展

入江一子

女流画家協会は、戦後女流軽視の画壇の風潮に反発して、三岸節子、森田元子先生を中心に11名の発起人で創立。全画壇の常連を勧誘し、73名で第1回展を開催しました。マリー・ローランサン、ブブノワなど11名の特別陳列をして、世界の女流画家とも交流がありました。

その後も、ニューヨーク・リバーサイド美術館で日米女流交歓展、パリ近代美術館で国際女流美術家クラブ展、カリフォルニア州パサディナで日米女流合同展などを開催。2006年、2008年にはニューヨークで、女流委員、会員有志による日本の女流画家展を開催し、女流展は世界を舞台に活躍してきました。

あのとき

吉江麗子

幼児期、昭和の初めの事だ。父に誘われて東京駅前丸ビルの屋上へ。ドイツの飛行船が来るといふ。姉、兄と私、じっと空を見上げていた。ゆっくりと、ゆっくりと動いてきたもの、大きな船のような形、それがツェッペリン伯号だった。今もまだ宙へのあこがれ深く、あれが私の仕事の原点だったのかもしれない。穏やかな思い出の昭和は、これで終り。次は〈戦争〉というグレイゾーンへひた走る。きらきらと残る、私の心の中のオアシス。

そして2012年、私の心はやはり宙に向かっている。花たちをのせた自分勝手なフォルムのバルーン。夢はまだまだ続きそう・・・。

2012年1月、日本橋三越本店で「ニューヨーク個展凱旋記念展」を開催しましたが、このご縁で日野原先生とのギャラリートークが実現しました。前例のないほど多くの方々が参加し会場が盛り上がり、あらためて先生の人気ぶりにおどろきました。対談で「先生は、私の大目標です。気力をいただきました」と私が感謝の言葉を申し上げると、「まだまだ95歳なので、100歳はゴールではなく関所だよ」とおっしゃり、「次回は100歳記念の展覧会をやりましょう」と激励していただきました。

これからも、女流画家の皆さんが世界にはばたく作品を期待し、私も生き残りの一人としてがんばって行きたいと思います。



2012年
花たちの遊覧飛行
153×169×20

第66回 女流画家協会展

2012年6月29日（金）～7月6日（金）
東京都美術館（上野）

女流画家協会展は66回をリニューアルとなった東京都美術館で開催され、今年は出品点数が増え、全般に130号の大作が多く、特に初出品の作品には協会らしい力強さが表れてました。

応募点数1,114点、入選点数460点、入選者数460名、落選点数654点、落選者数94名。応募者数は前年度より増加、入場者は8日間で9,000名。

会期中、総会を開催。

ギャラリートークは、大勢の出品者から作品について感想、批評、構図、技法等の質問が相次ぎ、活発で有意義な講評が行われました。

東京都美術館のリニューアルを記念して66回展の画集を発行、全出品者の作品を掲載。

懇親会は、大勢の来賓を迎えて女流への激励の言葉をいただきました。年に一度、全国から集まった出品者達は歓談と食事を楽しみながら大いに親睦を深めました。

協会初の会報を発行、活動報告、意見、お知らせ等を発信して行きます。また、会場でアンケートを実施、結果を今後の活動の参考にして、更なる女流の躍進を目指します。



審査



第66回女流画家協会総会



ギャラリートーク



懇親会



懇親会で挨拶する入江先生

女流画家協会関西展

2012年7月18日（水）～7月22日（日）
兵庫県立美術館 王子分館 原田の森ギャラリー東館

女流画家協会展に続き、兵庫県立美術館で関西展を開催。出品点数は55点。委員作品25点、受賞作品4点（会員2点、一般2点）、関西からの出品作品を展示。

来場者は女性の力強い表現を鑑賞していました。



次回地方展開催 2013年7月13日(土)～9月17日(火)「女流画家協会秋田角館展」秋田県角館町平福記念美術館



女流画家協会賞「不在の片割れ」100 S

児玉 沙矢華 (埼玉・会員)

受賞作品は子供の無邪気さとそれを取り巻く社会を描いたもので、誰も履いていない靴、鏡に写った靴はいかにも誰かが履いていそうな感じです。モノクロが好きで色彩よりもその造形、構成、空間の有りに魅力を感じわずかな青味がかかった色で希望を表現しています。人物は写真も参考程度に使用します。小品はモノクロが多く、年間制作数は独立展準会員の出品も含め5点ほどです。頑張り続けて絵の世界で描き続けて生き残っていったらとのことでした。(生駒・高橋)



大村文子記念賞「内なる力」130 F

森山 陽子 (兵庫・一般)

作品は植物の強靱な生命力を描いたセロームという名の草がイメージの源です。一部分に金箔、石膏、墨などを使用。描き始めて37年、女流展出品三回目で受賞。年間制作数は大作4、5点です。子育て後、米国、アトランタに在住し、2年半余りアトランタの美術大学の聴講生になり、ヌードデッサンは真っ暗な部屋で陰影をくつきりさせ、光と影を強調する制作風景。模造紙の黒や茶をクラシックな感じで光と影にして明るい部分を描く方法が多かったそうです。この経験が現在の絵につながっているかもしれません。(生駒・高橋)

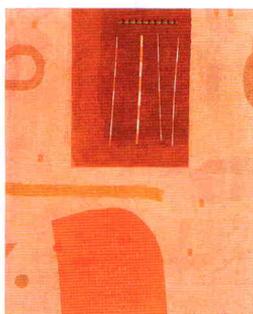


大住閑子賞「出来事」100 S

船津 多加子 (福岡・会員)

女流展への出品は21回展からです。昨年までモノクロで長崎県にある端島(軍艦島)を抽象的に描いていましたが、観光化されてしまい失望しました。今年の作品は石巻市の災害廃棄物処理を私の住む北九州市が受け入れることになり、クレーンのデッサンも取り入れて構成しました。一日も早い復興を願いながら描きました。心がけている事はいつも自分というフィルターを通して現実の問題を描きたいです。中央に出て来る事でとても良い刺激を受け、これからもがんばろうと毎回思います。(伊東・中村)

インタビュー画ガール



東京新聞賞 "implication" 89 × 109.5 版画

堤 敦子 (群馬・会員)

彼女の言葉によると、決して計算して創り出したものではなく、例えば人と人との「関わり合い」と、その気持ちや記憶をイメージして膨らませ、版画特有の偶然性とその過程を一つ一つ大切に、プロセスを楽しみながら、無意識に世界を創り上げているという。柔らかな色調と単純化された形で表現されている作品は、腐食による偶然性の無数の点々・・・も単なる点ではなく、周囲の点と繋がり、ハーモナイズされた自由な形と相まって、堤さんのやさしい思いやりが陰影となり、見る側の心を開放し、引き寄せてくれる作品である。(伊東・中村)



マツダA賞「我が家の食卓」130 変

高増 千晶 (長崎・一般)

受賞作品は身の周りや家の中にあるもの、お住まいの長崎の自宅菜園などがモチーフ。細く描き込むのが好きでホームセンターで入手して組み立てたボードにはめ込みます。一部分に玉ねぎと手形をコラージュ。六十回展が初出品、初受賞で今回は二度目の受賞です。年間制作数は独立展会友の出品も含めて、大作四、五枚です。よく使用する色は赤、黒、ベージュでカラフルな作品にひかれ実際によく観察してリアリティをつかんでから制作します。植物をモチーフに今のように描いて、自分の生活の一環、修行の一環にしたいです。(生駒・高橋)



初入選 初出品 最年少(高3)
「パイナップル」100 S

佐々木 七海 (秋田・一般)

入選作は七海さんの心象風景ともとれるような「パイナップル」は抽象で描かれ、若々しいリズム感と色彩がシンフォニーを奏でている。心の思うままの色づかいに若いメッセージとエネルギーが画面一杯に発散され、描く喜びが溢れている。学校では日常にある静物等をモチーフにスケッチ、キャンバスに向かっている。来年は美術系大学に進学希望。ご両親も応援して下さい。指導の女流協会展会友の深井富美子教諭の彼女に向けた眼差しは暖かい。七海さんの頑張るといことは「何も考えずに、ひたすら努力することです」と。(伊東・中村)

*** 2013年より研究部は会場が変わりました。**

会場：東京都美術館 2F スタジオ (*月1回、年間10回を予定)

女流画家協会研究部は、長年に渡り銀座の日本美術家連盟会館で行ってききましたが、2013年より会場を東京都美術館に変更しました。毎回異なる当会の先生方が、作品の講評とアドバイス、モデルによるデッサン、クロッキーを行います。引き続き皆様のご参加をお待ちしております。

担当：岡田菊恵 (主任)、平川きみ子 (会計)、黒澤裕子 (事務)



女流画家協会会期中にワークショップ「あなたも抽象画を描いてみませんか？」を開催します。
(定員20~25名・要予約) *初めての方も歓迎、是非ご参加下さい。

女流画家協会展 初のアンケート結果

「第66回女流画家協会展」会場で初めてのアンケートを実施しました。
(回答数：約600)

- 性別 …… 男86人、女246人
- 年代 …… 60代41%、70代以上32%、50代12%、30・40・20代の順
- 女流展を知ったのは? …… 知人89%、ポスター、雑誌、Web
- 居住地 …… 都内42%、関東地方51%、地方、その他
- 女流展を見た回数 …… 毎年32%、4回以上25%、初めて25%
- 印象 …… 大変良かった27%、良かった44%、新鮮さを感じた22%、その他7%
- 具体的な印象 …… 総じて良く、レベルが高く新鮮さを感じた。/女性の力は凄い、日本の宝、日本の女性に総理をやって欲しい。/元気をもらえる、情熱を感じて感動した。/祖母の作品が見られて良かった。/年取って地方から一人で出品して頑張っている。/想像もつかない発想に感動したし、他の団体は負けていると思った。/女性の色々な作品が一堂に観られて良かった。/受賞作品のレベルが低くがっかりした。/偏っている。受賞の理由が解らない。/どのような方向性で賞になったかの説明が欲しい。/抽象画が分からない。説明が欲しい。
- 会場について …… 会場の順路や、事務所の場所が非常に分かり難かった。/入口の案内が不親切。/会期が短かった。会場案内が欲しかった。婦人の声がうるさかった。/椅子をもっと出して欲しい。/点数が多く、上段は見にくかった。
- 要望 …… 小品が見たい。小品が入るとバランスが取れる。/色々なイベントにチャレンジして欲しい。/先生のワークショップを開いてほしい。/キャプションに油彩・水彩・版画、及び出身県の明記。/人気投票。

*アンケートのご協力ありがとうございました。

女流研究部の思い出

岡田 菊恵

最近の研究部は全体的にレベルが上がった。これは日頃の先生方のご指導のたまものと思います。折々に会場に来られた委員の方々を思い出します。随分と亡くなられてしまいました。私が深く印象に残っている方は、お一人は独立展の織田彩子先生です。何時ものお姿に風格を感じさせ、研究生には各々座っている所とイーゼルとの距離をしっかりと

確保させ正しい姿勢で描く事をよく注意されました。もう一人は光風会の北八代さんでした。この先生は昔女子高で教えていたようでもう背中が丸くなられたけど、せまい間をぬって細やかな指導は素晴らしいと思います。研究部に繋がると思います。今までのように変わらさず皆さん大いにやりましょう。又よろしく

お願いです。

募集

女流画家協会展に関すること(感想、思い出、要望等)を、女流画家協会事務所へお寄せ下さい。(300字程度)

つぶやき

岩手県の大槌町で子ども達に絵画指導を行った。民宿の御主人から「岩手県には原発が1つもなくて本当によかった」という話を聞いた。あったらどうなったかと思うとぞっとする。ちなみに、釜石駅前には火力発電の煙が上がっているのが見える。(Y.K.)

編集後記

「第66回 女流画家協会展」は、会期も会場も以前と変わり、戸惑うことも多かったですが、その中で協会初の会報を発行しました。アンケートを実施、結果は興味深く参考になりました。インタビューはできるだけ地方からの出品者を選び、会員に協力していただきました。会報を通じて情報や意見交換、出品者との交流に役に立てばと思います。(上)

女流画家協会 会報 vol.1 - 2013.2/1

発行日：2013年2月1日
発行：女流画家協会

女流画家協会事務所 塩川慧子方
〒214-0032 川崎市多摩区栢形6-22-12
TEL・FAX：044-900-7799
<http://joryugakakyokai.com>

編集委員：上條陽子(委)、関口聖子(委)、
伊東洋子(会)、生駒幸子(会)、高橋恭子(会)、
中村育子(会)、森田陽子(会)